

第5学年 図画工作科学習指導案

1 題材 「絵で変身パッ！」

(こんなときに感じることを思うこと)

2 指導観

○ 本題材は、自分の作品を飾り校内のある場所のイメージを変えるために、色の選び方や画面構成を工夫して絵に表すことをねらいとしている。また、次の4点から、本題材は造形的な資質や能力を伸ばす上で有意義であると考えられる。

- ・ 「この場所をこう変えたい」という思いをもち表現することを通して、鑑賞段階まで意欲が継続する。
- ・ 自分や周りの人がその場所にどんなイメージを持っているか、用途や光や季節感など様々なことを改めて見つめ直す事ができる。そのような活動の中で、自分の表現意図を明確にもつことができる。
- ・ 身近な校内のある場所を自分のかいた絵を飾ることで変えることを通して、試行錯誤しながら自分の表したいことに合った色の選び方や画面構成などを場所と関連づけながら表現することができる。
- ・ 制作途中及び完成段階に鑑賞活動を設定することで、互いの場所を生かす表現のよさや違いを見付け、それぞれの表したいことを感じ取って、自分の作品に生かすことができる。

○ 本学級の児童は、1学期に白壁通りの風景画の学習で自分が表したいことを絵に表現するを経験している。

1学期に行ったアンケート結果から、かきたいことが見付かると答えた児童が % いるが、「かきやすいから」と安易に選んだり、「犬がかわいいから」と当初の表わしたかったこととずれていたりするなど、自分の表現意図が見付かっているとは言えない児童も多かった。また、表現途中で意

欲が減退し、白いところが無いように一面に色をつけて終わりという児童もいた。そこで、意欲を持続させるためにも表現意図を明確に持たせる支援が必要であると考えた。

- 本題材の指導にあたっては、まず、校内の手洗い場と1年生の昇降口に参考作品を展示し、作品によって場所のイメージが変化することを味わわせる。次に、自分の作品を校内のどこに置いてどのように変化させるか考え場所探しをさせた後、自分が表したいことを図工ノートにアイデアスケッチする。この時に、友達と話し合う場を設定することで、お互いの発想のよさに気づき、発想を広げることができると考えられる。自分の表したいことが決まったら、思いに沿って表現させていく。制作途中や完成した時点で作品を鑑賞する活動では、お互いの表現の違いや感じ方を、作品のよさとして味わいながら大切な物として認め合えるようにする。

このような活動を通して、自分の表現意図が込められた作品が環境を変えることができた実感を味わい、日常生活の中でも環境と関わりながら表現することができるようにする。

3 目標

- 自分の作品を校内のどこに飾りどう変えるかを考え、楽しんで表現することができる。(造形への関心・意欲・態度)
- 場所と表したいことを関連づけながら構想することができる。(発想や構想の能力)
- 表したいことが伝わるように、画面構成や色の組み合わせなどを工夫することができる。(創造的な技能)
- 作品を展示し、お互いの表現のよさや美しさなどについて感じたことを伝え合うことができる。(鑑賞の能力)

4 題材における指導事項・評価規準・指導方法（全7時間）

	学習活動	関 意	発 構	技 能	鑑 賞	具体的評価規準	指導事項	指導方法
表 し た い こ と を 明 確 に す る	<p>1. 参考作品を校内の手洗い場と1年生の昇降口に展示し、作品によって場所のイメージが変化したことを味わう。（1時間）</p> <p>2. 自分の作品で変えたい場所を探す。（1時間）</p>	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品によって場所のイメージが変化したことを感じとることができる。（鑑） 自分の作品をつくり飾ることに興味をもち場所探しを意欲的にすることができる。（関） 	○ 場所のもつイメージを生活体験から五感を通して感じることに。	<ul style="list-style-type: none"> 作品があるときと無いときの場所のイメージの違いに気付かせるため、参考作品を展示し鑑賞させ興味関心をもたせる。
自 分 の 表 し 方 を 決 め る	<p>3. 場所から受けるイメージを生かして自分が表したいことを図工ノートにアイデアスケッチする。（1時間）</p>	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 変えたいイメージを意欲的に考えることができる。（意） 場所がもっている感じをどう変化させたいか、そのためにどんな絵をかきか思いつくことができる。（発） 自分が表したいことに合う表し方を決めることができる。（発） 	○ どこに展示し、どのように変化するのか、そのためにどんな形、色にするのかを明確にすること。	<ul style="list-style-type: none"> 図工ノートに、どこに展示するのか、どのような場所にしたいのか、形・構図など、自分の思いをもたせるように項目立ててアイデアスケッチさせる。 友だちと話し合う場を設定し、お互いの発想のよさに気づき、発想を広げることができるようにする。

表 す	4. 場所のイメージを生かして自分が表したい絵に表す。 (3時間)	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 自分が表したいことが伝わるように工夫しながらかいている。(技) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が表したいことに合わせて、形・色を考えていること。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに自分の思いに近づくよう試行錯誤できるように、試しながら表現できる場を設定する。
鑑 賞 す る	5. お互いの作品を鑑賞し、よさや美しさを認め合う。 (1時間・本時)	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友だちの作品を鑑賞する活動に、意欲的に取り組んでいる。(関) 自分や友だちの作品のよさや美しさを見付けている。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> 表したかったこと、そのための工夫など意欲的に自分の作品を紹介すること。 視点をもって友だちの作品を鑑賞できたか自己評価をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で鑑賞の視点を確認する。 友達の作品を見て、どのような思いが伝わってくるのか、そう思う理由も言わせる。 よさや美しさを認め合えるようなグルーピングをおこなう。

5 本時

平成22年11月 日 () 校時 教室と校内

6 本時目標

- 自分が感じたことを自由に伝え、友だちの感じ方と比べることで見方を広げたり深めたりしながら、作品を鑑賞する活動に意欲的に取り組むことができる。

(関心・意欲・態度)

- 視点に沿った鑑賞ができ、自分や友だちの作品の表現のよさや美しさを見付け、見方を広げたり深めたりすることができる。

(鑑賞の能力)

7 授業仮説

作品によって場所の持つイメージを変えらるという題材で目的意識をもたせ、表現意図を明確にさせる工夫を行う。そうすれば、鑑賞の段階まで表現意図がぶれずに意欲を継続することができるであろう。その結果、作品の画面構成や色の組み合わせなどの特徴から「この場所をこのように変えたいから、このようなものをかいたのだろう。」という鑑賞の視点が明確になり、活発に話し合うことができるであろう。さらに、表現意図を振り返らせるような発問の工夫を行えば、作品の色や形から場所のイメージが変わったという根拠を明確に伝えることができ、よさや美しさを味わい、見方を広げたり深めたりすることができるであろう。

8 準備

- 図工ノート、場所の写真、ストップウォッチ・手順表・校内地図

9 本時指導の考え方

本時は、感じたことの根拠を作品と場所から明確にしたり、自分のイメージを関連付けたりして、作品のよさや美しさを見付けることがねらいである。

本時の指導にあたっては、まず全体で鑑賞す

る視点を確認する。

次に4～5人の小グループで校内の展示作品を鑑賞し、自由に感想を出し合う。作品と場所からこのように感じる、という自分なりの根拠を明確にさせる事と、場所に対する用途や光や季節感など様々なことを関連付けて鑑賞するという視点をつかませたい。

これを繰り返し、グループ全員の作品を鑑賞する。

最後に友だちの作品を鑑賞した感想を発表する。

以上のようにして、児童が思考しながら作品のよさや美しさを見付けられるようにしたい。

10 本時学習における指導事項・評価規準・指導方法

	学習活動	具体的評価規準	指導事項	指導方法
導入	<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>めあて 作品を置くことで場所がどう変わったか味わおう。</p> </div>	<p>・ 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもっている。 (関)</p>	<p>○ 作品のよさや美しさを見付けようとするこ と。</p>	<p>・ 「よさや美しさ」は自由 に自分らしく感じて よいことを確認する。</p>
展開	<p>2. 全員で鑑賞の視点を確認する。</p> <p>○ 作品のよさや美しさを見付け、その場所の感じがどう変化したのか出し合う。</p>	<p>・ 作品の表現のよさや美しさを場所と関連して見付けることができる。 (鑑)</p>	<p>○ 鑑賞の視点をもって作品を見ることで、よさや美しさが見付けることができるということ。</p>	<p>・ 鑑賞の視点を整理する。</p> <p>○ 場面構成・色の組み合わせ</p> <p>○ 作品の大きさ</p> <p>○ 場所との関連</p> <p>「この場所をこう変えたくてこの色を使ってこう表現したのかな」</p>
	<p>3. 4～5人組で自分の作品を含めた友達の作品を鑑賞する。</p> <p>(1) 友だちの作品から受けた印象や自分が感じた場所の変化を出し合う。</p> <p>(2) 自分の作品の工夫した点や、どのような思いでつくったのかを伝える。</p> <p>(3) 作者以外の人は、それについての質問や感想を自由に話し合う。</p>	<p>・ 互いの作品を鑑賞する活動に意欲的に取り組んでいる。 (関)</p> <p>・ 鑑賞の視点を持ちながら互いの作品のよさや美しさを見付けている。 (鑑)</p>	<p>○ 感じたことの根拠を明確にしたり、形や色や場所と高さ等と自分のイメージを関連付けたりして、思考しながら作品のよさや美しさを見付けること。</p>	<p>・ 違う展示場所の4～5人組にする。</p> <p>・ 教師は各グループをまわり、なぜそう感じたのか問い、根拠を考えさせたり、自分が感じたことを作品と場所を関連づけて鑑賞している子に発表させたりし、鑑賞の視点に立ち返る。</p>
終末	<p>4. 本時学習の感想を書き、伝え合い、学習のまとめをする。</p>	<p>・ 視点をもって作品を鑑賞できたか、図工ノートに自己評価と感想を書き、学んだことを確かめている。 (鑑)</p>	<p>○ 鑑賞の視点をもって作品を見ることで、よさや美しさが見付けることができるということ。</p>	<p>・ 図工ノートに書いたことを数名に発表させる。</p>